2020 年 9 月　Vol. 66

HERD SUPPORT Information for ASHORO

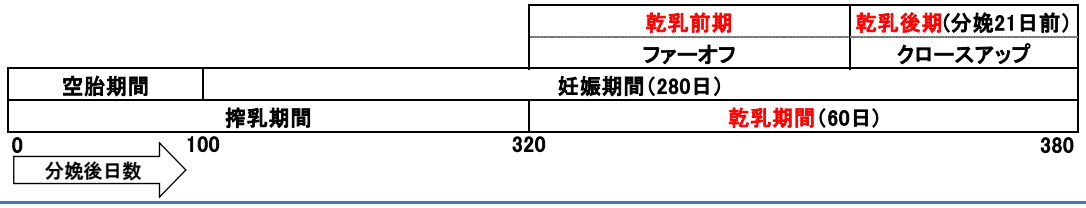
あしょろ・ハードサポート通信

旱魃が続いたことで２番牧草の収穫量の減少や、放牧地での草不足が各地で見られ、高温多湿な気候は９月上旬まで続きました。６月の蝦夷梅雨など、今年はスタンダードから大きく外れた気候でしたが、最近ではようやく秋らしくなり乳牛にとっても過ごしやすい日が続いています。さて、今回は乾乳牛についての話題です。

◆乾乳について

一般的な乾乳の流れは、下の表のように期間を６０日間取ります。乾乳期間は２つに分けて考えられ、ルーメンの絨毛や乳腺組織をリフレッシュする「乾乳前期」、次泌乳期に向け、乳腺の発達と急激に発育する胎子に十分な栄養が必要となる「乾乳後期」があります。

分娩後100日で妊娠した乳牛のライフサイクル



◆乾乳舎のスペースと序列行動

乾乳舎の環境においては１頭あたりの飼養スペースの確保がとても大切であり、最近では１０～１２㎡と広くとることが推奨されています。乾乳舎を新設する予定があれば分娩の偏りも考慮し、平均滞在頭数よりも広いスペースを設けることをおすすめします。また、乾乳舎ではメンバーの入れ替わりが多く、その都度社会的順位付けを行うため闘争が起こりやすくなり、弱い牛はもちろん強い牛も、序列行動に忙しく採食量を落してしまいます。そのため、乾乳牛を前期と後期の２群に分けて管理するより、群入れ替えの少ない１群で管理した方が上手くいくケースもあります。

◆初産牛の乾乳期間は十分に

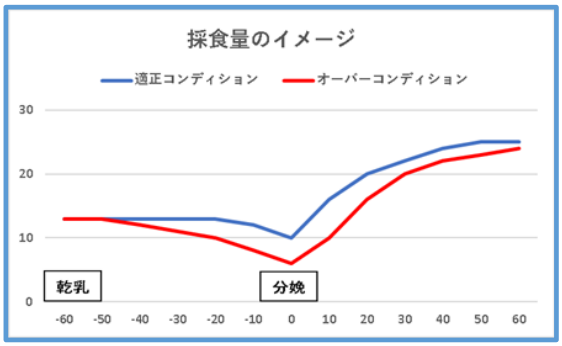
右の表は、乾乳期間が全体的に短めになっていた酪農家さんの実例です。初産から２産目を迎える時の乾乳期間が３０日以下となってしまった個体のピーク乳量を調査したところ、ピーク乳量が低下していることがわかります。初産牛は体の発育や乳腺が成長途中であり、十分な乾乳期間を与えてあげることが大切です。

乾乳期間の違いによる2産目の産乳性

乾乳期間	ピーク乳量(kg)
30日以下(12頭)	42.3
31日以上(22頭)	48.3

◆オーバーコンディションの乾乳牛

受胎が遅れ、分娩後の空胎期間が長くなってしまった搾乳牛ほど乾乳する時点で過肥になっている傾向があります。過肥になってしまった乾乳牛では、左下の表のように分娩前の採食量が大きく低下し、このことが次産分娩後の代謝障害と密接に関係しています。過肥になってしまった牛では、分娩前の採食量を極力落さないことを最優先とし、乾乳期間中にむやみに群移動をしないことや、高産次牛の場合は乾乳期間を短縮させることも選択の１つです。



過肥の乾乳牛

◆牛が健康なことは省力化にもつながる

乾乳は泌乳期の終わりではなく、次期泌乳サイクルのスタートと言われてきています。分娩後の搾乳牛の健康状態は、乾乳牛の飼養管理の成否に大きく左右され、その後の獣医さんの診療頻度も変わります。疾病が多いということは、非常に手間のかかることです。乾乳牛の飼養管理に注力することや、最適な飼養環境を提供することは、結果的に牧場作業の省力化につながるのではないでしょうか。　　（船久保　雄二）

分娩後の不調牛を独房へ移動